

様式 1

授業科目 生活構造論 I

科目コード番号

【担当教員名】 山手 茂	対象学年	2	対象学科	社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【概要及び学習目標】

<概略>

人間を「生活者」としてとらえ、生活の全体構造を、①個人の生活構造、②家族の生活構造、③地域住民の生活構造、④国民の生活構造の各レベルについて分析する。

<学習目標>

1. 人間の生活、生活者、生活構造、生活問題など生活にかかわる基本概念を理解する。
2. 生活と保健・医療・福祉との関係を理解する。
3. 生活の主体者である「生活者」の生活設計と生活問題対策について考える。

回数	学 習 の 主 題	学 習 内 容	学習方法
1	生活とは何か	生活の概念と生活者の概念を理解する。	講義受講 (受講者が少なければ討論も行う) 読書等 自主学習
2	生活構造とは何か	生活構造の研究史、生活構造概念の形成過程を理解する。	
3	社会構造と生活構造	社会と生活との構造的関連を分析する。	
4	社会問題と生活問題	社会問題と生活問題との共通点・相違点を理解する。	
5	生活問題と生活福祉	生活問題対策としての生活福祉を理解する。	
6	生活問題と生活設計	生活問題に対する主体的対策としての生活設計を考える。	
7	生活設計と生活福祉	生活者の主体的生活設計と社会的生活福祉の関係を考える。	
8	個人の生活構造	個人の生活周期の各段階における生活構造を理解する。	
9	家族の生活構造	結婚から夫婦の死亡に至る各段階の生活構造を理解する。	
10	地域住民の生活構造	農村、都市など地域による住民生活構造の相違を考える。	
11	国民の生活構造	戦後日本の国民生活の構造的変化を理解する。	
12	現代の生活構造の変化	21世紀における生活構造・生活問題の変化を予測する。	
13	生活変化と保健・福祉の課題	生活構造と生活問題の変化に対応する保健・福祉を考える。	
14	まとめ		
15	まとめ		

【評価方法】

- ①レポート、②出席、③期末試験を総合して評価する。

【履修上の留意点】

生活者として自覚し、自分の生活体験と、家族の生活体験を客観的にとらえ、講義・教材・参考書などを活用して、主体的に学習してほしい。

【使用図書】

教科書・参考書等	書 名 等	著 者 名	発 行 所	発行年・価格・その他
教科書	毎時間印刷教材を配布する			
参考書	随時紹介する			
その他 (プリント等)				